



のぎく

だより

5月



“ 5月1日（雑節） ～ はちじゅうはちや 八十八夜 ～ ”

立春から数えて88日目にあたる日のことです。末広りの「八」が重なる八十八夜に摘まれた新茶は縁起が良く、飲むと長生きできると言われています。

【 お茶はかつて薬だった 】

唐（現在の中国）から日本のお茶が伝わったのは、平安時代初期と言われています。当時、唐では薬として服用されており、日本でも滋養強壮などの目的で飲まれていました。「お茶を一服」という言葉は、このことに由来しています。その後、僧侶や上流階級の人などに嗜好品として飲まれるようになりました。嗜好品としてのお茶が庶民に普及したのは、煎茶が出回った江戸時代です。



“ 5月5日（こどもの日） ～ たんこ せっく 端午の節句 ～ ”

中国発祥の厄払いの風習で、日本に伝わったのは奈良時代です。やがて、男の子の健やかな成長を祝い、立身出世を願う行事として定着していきました。1948（昭和23）年に「こどもの日」になり、男女の区別なくお祝いするようになりました。

【 昔、こいのぼりは黒かった 】

江戸時代のこいのぼりは黒い真鯉だけでしたが、明治時代に赤い緋鯉が加わり、2色になりました。

現在のようなカラフルなこいのぼりになったのは、1964（昭和39）年の東京オリンピックで五輪マークを見た職人が思いついたことがきっかけと言われています。



【 菖蒲湯（しょうぶゆ） 】

菖蒲には古くから魔除けや厄除けの効果があるとされ、端午の節句の日に菖蒲湯につかることで、暑い夏を健康に過ごせると言われています。

アヤメ科の花菖蒲と名前が似ていますが、菖蒲はサトイモ科で、異なる植物です。



【 端午の節句の食べ物 】

- ◆ 柏餅（かしわもち）：柏の木は新芽がでないと古い葉が落ちない特性があり、「親から子へと途切れることなく代が続く」として、子孫繁栄を願って食べます。
- ◆ 粽（ちまき）：災いをよける中国の行事食です。子どもの健康や厄除けを願って食べます。他にも、子どもの厄除けを願う草餅や、健やかな成長を願うタケノコ料理などを食べて祝います。





“ 今月のご当地グルメ ”



全国のご当地グルメが
食べられるよ！みなさん！
お待ちしております！
勝浦タンタンメン（千葉）
浜松餃子（静岡）
からまなす（千葉）
うなぎサブレ（静岡）



手作り
コロッケ



“ 誕生者のみなさん おめでとうございます ”



貝森清一郎様 西村 新平様 野呂 一様 浪岡 ハル様 浅利 陽子様 田山 サワ様 櫻庭 和子様 阿部 一郎様 三浦百合子様

のぎくの風景～春のドライブ・レクリエーションなど～”

